

# CAGLIERO<sup>11</sup>

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.57 - 2013年9月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



## 素朴な人びとと共に、 神が私たちの生きる状況のなかで働かれるのを見る

**ロ**ーマとピエモンテで行われた新宣教師研修コースの、文化に関するさまざまな講話は、異なる文化や新たな現実に対して取るべき正しい姿勢を私のなかに作ってくれました。自分たちの基準でものごとを判断するのは簡単です。そのためグアテマラに来たとき、私は世界のこの場所で神が何をなされたかを見るように努め、聞く姿勢を持つようになりました。現実を信仰の目で見ることを学びました。信仰の目は、目に映ることのさらに向こうを見つめ、その現実のうちに刻まれている大きな可能性に開かれています。心を開いて、多くの人と語り、人びとの生きる現実に触れ、私は司祭として、サレジオ会員として成長しはじめました。

ある15歳の少年と話す機会がありました。彼が学校に通っているということは経済的に恵まれているということです。少年が話してくれたことは、私にとって冷たい水を浴びせられるかのようなものでした。「ヨーロッパでは無駄なことにお金を使っているけど、そのお金があればぼくたちは勉強ができる。ぼくは家に食べるものがあるし心配してくれる人もいるから幸運だけど、お金が足りないから大学でコンピューター科学の勉強はできない」。この最初の冷たいシャワーの後、彼は言葉を続けました。「……ヨーロッパでは家畜にトウモロコシをやるって神父様から聞いたけど、ここではそれが主食だよ。恵まれた人は一日三食食べられる。…たくさんの子どもたちがお腹を空かして、飢えたまま生きるより死んだほうがましだと思ってるんだ！…ヨーロッパが経済危機だって聞いたけど、本当は豊かなのに慣れているだけで、今、消費の仕方を変えなければならなくなって驚いてるんじゃない？」

でもここで、困難な状況にもかかわらずより良い世界をどう築いたらよいか知っている人たちに私は出会いました。ある女性が見捨てられた子どもを自分の家に引き取り、自分の息子のように世話をするのを見て、私は心を打たれました。その女性は説明してくれました。「11年前、夫は二人の子どもを残して私から去って行ってしまいました。今、どこで何をしているのか、全くわかりません。愛してくれるはずの人に拒絶されることがどうということなのか、私は経験したんです。近所の人自分たちは米国に行くけど子どもを連れて行けない、面倒を見てほしいと言ってきたとき、私は一瞬も迷いませんでした」。この人は、わずかしか持たないにもかかわらず分かち合うことを知っている人、自分自身も傷ついているにもかかわらず、愛するために心を閉ざさなかった人の一人です。

新宣教師研修コースのおかげで、私は自分を取り囲む素晴らしいものを発見することができるようになり、神がこの文化、現実の中で働いておられるのを信仰の目で見ることを学びました。私たちの奉仕職がどれほど大切か、宣教師になるよう私を呼ばれた神の賜物がどれほど素晴らしいものか、神は気づかせてくださり、私は本当に幸せです！

イタリア出身、グアテマラの宣教師  
ジャンピエロ・デ・ナルディ神父



## サレジオ会員の 皆さん、 サレジオ・ ミッションの友人の 皆さん！

私は訪れた養成支部のほとんどで、期間を限った宣教派遣は可能かと尋ねられました。ピオ12世のときから教区司祭の派遣 fidei donum (1957年) は期間を限った契約になっていますが、サレジオ会の伝統においては期間限定的な宣教派遣は例外的な次のような場合と考えられています：(1) 管区長が会員を1、2年宣教地に派遣することによって会員の宣教師召命の識別を進めたいと考える場合；(2) 年配の会員が生涯をかけて宣教師になることを望んでいるが、自信がない場合；(3) 宣教地で特定の仕事のために緊急なニーズのある場合（養成あるいは教育、専門家を必要とする特定の仕事など）。これらの場合、双方の管区長の間で契約が交わされます（会則151）。

宣教ボランティア活動への派遣期間は2年ですが、宣教師の召命は自分を ad gentes - ad exteros - ad vitam すべての人へ、外に向かって、生涯ささげることです。サレジオ会宣教師になること、新たな文化の中で教育者、牧者になることは、生涯かけた献身を意味します。なぜならインカルチュレーションの歩みは数年で終わるものではなく、生涯つづく取り組みになるからです。9月29日の第144回サレジオ宣教派遣を目指して9月4日から始まる新宣教師研修コースの間、新宣教師たちのために祈りましょう！

*Václav Clement*

宣教師顧問  
ヴァツラフ・クレメンテ神父



## 第144回 サレジオ会宣教派遣のメンバー

	氏名	出身管区	派遣先		氏名	出身管区	派遣先
1	Andre Belo	ITM	バングラデシュ	19	John Baptist Duc Tin Nguyen	VIE	ポリビア
2	Jorge Bento	POR	モザンビーク	20	John Quoc Tuyen Nguyen	VIE	香港
3	John Baptist Nhu Cao Bui	VIE	ザンビア	21	Joseph Tuan Anh Nguyen	VIE	ザンビア
4	Peter Huu Ngoc Thinh Bui	VIE	ペルー	22	Joseph Cao Thai Nguyen	VIE	南アフリカ
5	Minh Duc Dang	SUE	中東	23	Peter Thanh Son Nguyen	VIE	ポリビア
6	Gregory Echegwo	AFW	英国	24	Vincent Tien Nam Nguyen	VIE	モザンビーク
7	Jaroslav Fogl	CEP	ブルガリア	25	Lazri Odise	IME	南アフリカ
8	Gamaliyel Francis	INT	バングラデシュ	26	Ramon Pacada	FIS	パキスタン
9	Juan Gatica	CIL	アンゴラ	27	Francisco Robewno	MYM	スーダン委任地区
10	Anton Grm	SLO	モザンビーク	28	Diravya Rupen	INT	ザンビア
11	Dominic Savio Ngoc Linh Hoang	VIE	日本	29	Alexander Samoylov	PLN	アルゼンチン南
12	Delphin Ndungu Kahemba	AFC	香港	30	Roman Sikoń	PLS	バングラデシュ
13	Serge Loubayi	ATE	チュニジア	31	Augustino Do Phuc Tra	VIE	英国
14	Robert Malusa	SUE	ザンビア	32	Joseph Van Xuan Tran	VIE	モザンビーク
15	Giovanni Mandrella	ICC	香港	33	Christian Tshala Wika	AFC	フランス-ベルギー南
16	Jozef Marek	SLK	アゼルバイジャン	34	John Bosco Tien Dung Vu	VIE	ペルー
17	Shoji Matthew	INB	パプア・ニューギニア	35	Jozef Žembera	SLK	スロバキア(ロマ・ミッション)
18	Saju Mullasseril	INH	英国	36	Hubert Zobinou	AFO	スーダン委任地区



南アフリカ準管区長フランソワ・デュフル神父へのインタビュー(英語)  
<http://vimeo.com/71570223>



### サレジオ会の宣教の意向

#### サレジオ会の新たな宣教召命のため

第144回サレジオ会宣教派遣のあかしによって、世界各地の特に若い管区において、宣教の熱意が触発され、強められますように。

毎年行われるように2013年の今年も、9月の最後の日曜日、総長はヴァルドッコの扶助者聖母大聖堂で、第144回サレジオ会宣教派遣式を執り行います。1875年に始まったこの伝統は、世界5大陸における新たな宣教師の召命を祈る素晴らしい機会になります。特に若い管区、そして長いあいだ宣教師を送っていない管区のために祈ります。私たちの会の創立当初の物語が繰り返されるだろうと私たちは信じています: 宣教地に派遣してほしいと願うサレジオ会員の数が増えると、ドン・ボスコに自らを永遠にささげたいとサレジオ会修道院の扉を叩きに来る若者の数も増えるのです。

